

パチンコ依存問題の相談 年末に向け減少

パチンコ依存問題の相談機関であるリカバリーサポート・ネットワーク（RSN・西村直之代表）が、09年11月の相談件数をまとめた。

それによると、09年11月の相談件数は79件で20カ月ぶりに80件を割り込んだ。RSNによると、開設以来、毎年年末に向けて相談件数が減少するという。この要因についてRSNでは様々な角度から分析中だが、今のところはっきりとしたことは分かっておらず、機関紙の「さくら通信」で「減少する理由を絞り込むことができれば、それに対して来年末は対策を講じることが

できる。件数減少に関し、何か気づいたことがあればぜひ教えて欲しい」と呼びかけている。「さくら通信」によると、都市部、地方に関係なく相談件数は減少しているという。

なお、依存問題における最近の相談の傾向では、男女共にパチンコの比率が増加していることを指摘している。特に女性では8月以降に大幅に増加し、パチンコとパチスロの両方の割合が減少。RSNでは、この傾向についてはまだ実数が少ないことから、今後、長期にわたるデータの推移を注意深く観察していきたいとしている。